

漢籍目録入門（資料）

中里見，敬
九州大学大学院言語文化研究院：助教授：中国文学

<https://hdl.handle.net/2324/5592>

出版情報：中国古典通俗文芸研究のための書目データベースの構築と公開，pp.32-48，2006-02．関西大学文学部
バージョン：
権利関係：

平成16～17年度
日本学術振興会科学研究費補助金
基盤研究(C)報告書

「中国古典通俗文芸研究のための書目データベースの構築と公開」

課題番号 16520212

研究代表者

二階堂 善弘

(関西大学・文学部・教授)

研究分担者

中川 諭

(大東文化大学・文学部・助教授)

中里見 敬

(九州大学・言語文化研究院・助教授)

平成18年2月

漢籍目録入門（資料）

中里見 敬

本稿は、2005年5月25日に九州大学附属図書館で開催された漢籍講習会で、「漢籍目録入門」と題して行った実習に用いた資料である。

この漢籍講習会は、九州大学の図書館職員および漢籍を利用する大学院生を対象として、九州大学の教員が行っているものである。私の担当した「漢籍目録入門」では、漢籍目録と漢籍版本の実物を受講生に配布したうえで、本資料に基づき簡単な解説を加えたのち、実習問題に取り組むことをとおして、漢籍目録への理解を深めてもらった。主な実習内容は、以下の四点である。

1. 漢籍目録はどのような構成でできているか
2. 漢籍目録にはどのような種類があるか
3. 漢籍目録は実際の漢籍をどのように記述するのか
4. 書誌学・版本学の基礎知識

なお、本講習会で用いた漢籍目録および漢籍版本は、すべて九州大学附属図書館、ならびに九州大学附属図書館六本松分館に所蔵されるものであり、なるべく一般的に利用可能な資料の中から選んだつもりである。したがって、いわゆる善本など、とくに価値のある漢籍の紹介を意図したものではない。

そのため、本資料で取り上げられている漢籍は、他の機関で同様の漢籍講習会を行う際にも、比較的容易に利用できるものが多いと思う。また、同一の漢籍がなくとも、本資料をてがかりとして、類似の漢籍を参照することによって、これまで漢籍の実物に触れたことのない人が、ある程度の知識を得るための一助となるのではないかと思う。

さらに漢籍について深く学ばれたい方には、陳国慶著、沢谷昭次訳『漢籍版本入門』（東京：研文出版、1984）に付された、訳者・沢谷昭次氏による「参考文献案内」が有益である。本資料の末尾には、沢谷昭次「参考文献案内」補遺として、1984年以後に出版された参考文献をあげたので、あわせてご利用いただきたい。

本科学研究費課題である「中国通俗文芸研究のための書目データベースの作成と公開」を行うにあたっては、当該分野の研究者に漢籍およびその目録に関する深い知見が求められるだけでなく、漢籍の保存・利用、ならびに漢籍目録の作成に従事しておられる図書館職員の方々、さらには将来漢籍に関わるであろう大学院生に、漢籍と漢籍目録についての基礎的知識をもっていただくことが、この種の研究を推進し支えるために不可欠、かつきわめて重要な基盤となる。この点はいくら強調しても強調しすぎることはない。その意味で、本資料は当研究課題の一環であり、これを何らかのかたちで関係者にご利用いただければ幸いである。

漢籍目録入門

言語文化研究院 中里見 敬

1. 漢籍目録の構成
2. 様々な漢籍目録
3. 漢籍目録の作成
 - 3.1. 漢籍目録の記述を読む
 - 3.2. 漢籍目録の記述を作成する
4. 書誌学・版本学入門(1)
 - 4.1. 刊本
 - 4.1.1. 宋刊本・元刊本
 - 4.1.2. 明刊本
 - 4.1.3. 清刊本
 - 4.2. 活字印本
 - 4.3. 石印本
 - 4.4. 影印本（景印本）
 - 4.5. 套印本（朱墨本）
5. 書誌学・版本学入門(2)
 - 5.1. 封面
 - 5.2. 刊記（牌記）
 - 5.3. 版心
6. 参考文献

1. 漢籍目録の構成

実習1: 以下の本が、漢籍目録のどこに著録されているか調べてみよう。

	部	類	属	目
(例) 孟子	經部	四書類	孟子之属	

詩經

春秋左氏伝

論語

史記

三国志

資治通鑑

四庫全書総目提要

荀子

朱子語録

孫子

韓非子

本草綱目

茶經

莊子

陶靖節集

杜工部詩集

唐詩選

元曲選

三国志演義

西遊記

2. 様々な漢籍目録

歴代正史

- a. 『漢書』芸文志（北京：中華書局, 1975）
- b. 『隋書』經籍志（北京：中華書局, 1973）

公庫著録之属

清

- c. 『四庫全書総目』（北京：中華書局, 1965）

近代

- d. 『九州大学附属図書館教養部分館漢籍目録』（福岡：九州大学附属図書館教養部分館, 1971）【六目】
- e. 北京図書館編『北京図書館古籍善本書目』（北京：書目文献出版社, 1987 序）
- f. 『九州大学附属図書館漢籍目録』（福岡：九州大学附属図書館, 1994）【頁, 右から第何項と引用】
- g. 周彦文『日本九州大学文学部書庫漢籍目録』（台北：文史哲出版社, 1995）

家蔵知見之属

- h. 宋・陳振孫『直齋書録解題』（上海：上海古籍出版社, 1987）
- i. 清・黄虞稷『千頃堂書目』（上海：上海古籍出版社, 1990）
- j. 国立北平図書館『梁氏飲冰室蔵書目録』（台北：進学書局, 1970 影印）
- k. 傅增湘『蔵園群書経眼録』（北京：中華書局, 1983）
- l. 王重民『中国善本書提要』（上海：上海古籍出版社, 1983）

因地著録之属

書景之属

- m. 周彦文『日本九州大学文学部書庫明版図録』（台北：文史哲出版社, 1995）

実習2: これらの目録を、その性質によって分類すると、以下のどこに該当するか考えてみよう。

一か所の蔵書

- 公共機関
- 個人蔵書

多数か所の蔵書

- 網羅的なもの
- 善本に限定
- 個人が調査したもの限定
- 地域を限定

3. 漢籍目録の作成

3.1. 漢籍目録の記述を読む

漢籍目録の記述を読んでみよう。

- 書名 卷首（第一卷第一葉）からとる
- 卷数
- 撰者 撰・輯・注・校補など
- 鈔刻（出版事項）
いつ・どこの・だれが・どうした

3.1.1. 『九州大学附属図書館漢籍目録』（福岡：九州大学附属図書館，1994）

春秋穀梁傳 一二卷（晉）范甯集解 同治七年刊（湖北崇文書局）

- 書名 春秋穀梁傳
- 卷数 十二卷
- 撰者 先秦（秦より前、春秋戦国時代）の書物は撰者（＝著者・作者）を記さないの、撰者はなし。晋の范甯が集解した（＝様々な注解を集めた）。
- 鈔刻（清の）同治七年に、湖北の崇文書局が、刊した（＝刊刻した）。

【避諱】清の道光帝（1821-1850 在位）の諱・旻寧を避けて、「寧」を「甯」に作る。

cf. 欠筆（＝闕画） 例：康熙帝（1662-1722 在位）の諱・玄燁



左：『甯陵縣志』宣統三年刊本

右：『寧陵縣志』康熙三十二年序刊本

（京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター『漢籍目録：カードのとりかた：京都大学人文科学研究所漢籍目録カード作成要領』（京都：朋友書店，2005）p. 13 より）

春秋穀梁傳 一二卷 (晉)范甯集解(唐)陸德明音義
民國五年刊 (掃葉山房據山谷書屋藏板)

- 書名 春秋穀梁傳
- 卷数 十二卷
- 撰者 撰者はなし。晋の范甯が集解し、唐の陸德明が音義 (=漢字の発音と意味についての注釈) をつけた。
- 鈔刻 民国五年に、掃葉山房が、山谷書屋藏板 (という版本) に據って、刊した。

周禮精義 一二卷(存卷一・卷二) (清) 黄淦撰
嘉慶一二年序刊

- 書名 春秋穀梁傳
- 卷数 十二卷本の、卷一と卷二が現存している
- 撰者 清の黄淦が撰した。
- 鈔刻 嘉慶十二年の序を付して、刊した。

孔子家語 一〇卷札記一卷 (魏)王肅注(清)劉世珩札記
光緒二四年刊 (貴池劉氏玉海堂據汲古舊藏宋蜀本影印)

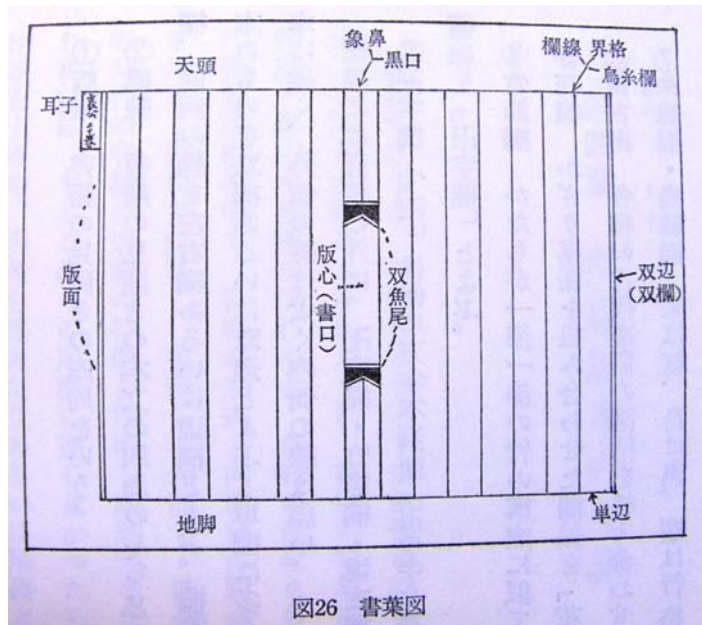
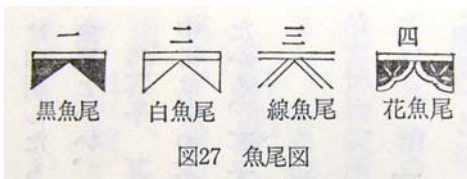
- 書名
- 卷数
- 撰者
- 鈔刻

3.1.2. 北京図書館編『北京図書館古籍善本書目』(北京:書目文献出版社,1987序)

監本附音春秋穀梁註疏二十卷 晉范寧、唐楊士勛撰 唐陸德明釋文 元
刻明修本 十册 十行十七字小字雙行二
十三字白口
左右雙邊

春秋穀梁註疏二十卷 晉范寧、唐楊士勛撰 唐陸德明釋文 明嘉靖李元陽刻十三
經註疏本 六册 九行二十一字小字雙行同白口四周單邊

春秋穀梁註疏二十卷 晉范寧、唐楊士勛撰 唐陸德明釋文 明崇禎八年毛氏汲古
閣刻十三經註疏本 姚世鈺跋並録何焯校跋 五册 九行二
十一字小字雙行
同白口左右雙邊



(魏隱儒, 王金雨著; 波多野太郎, 矢嶋美都子訳『漢籍版本のてびき』(東京: 東方書店, 1987) p. 70-71 より)

3.2. 漢籍目録の記述を作成する

実習3: 実際に、漢籍の版本を手にとって、漢籍目録の体例にしたがって必要な情報を記録してみよう。

4. 書誌学・版本学入門(1)

4.1. 刊本

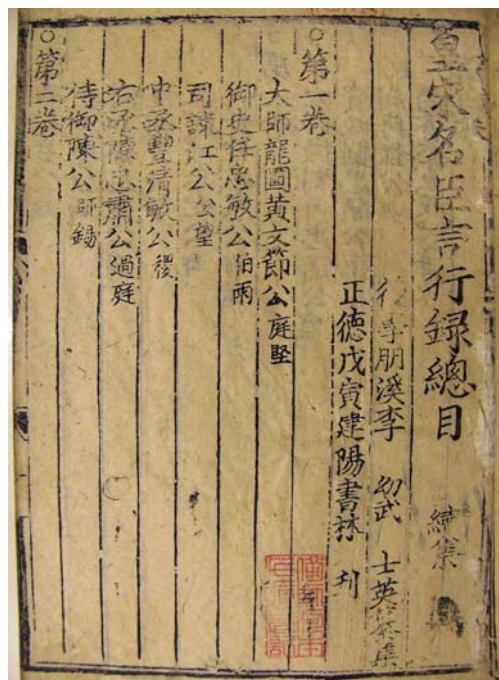
4.1.1. 宋刊本・元刊本

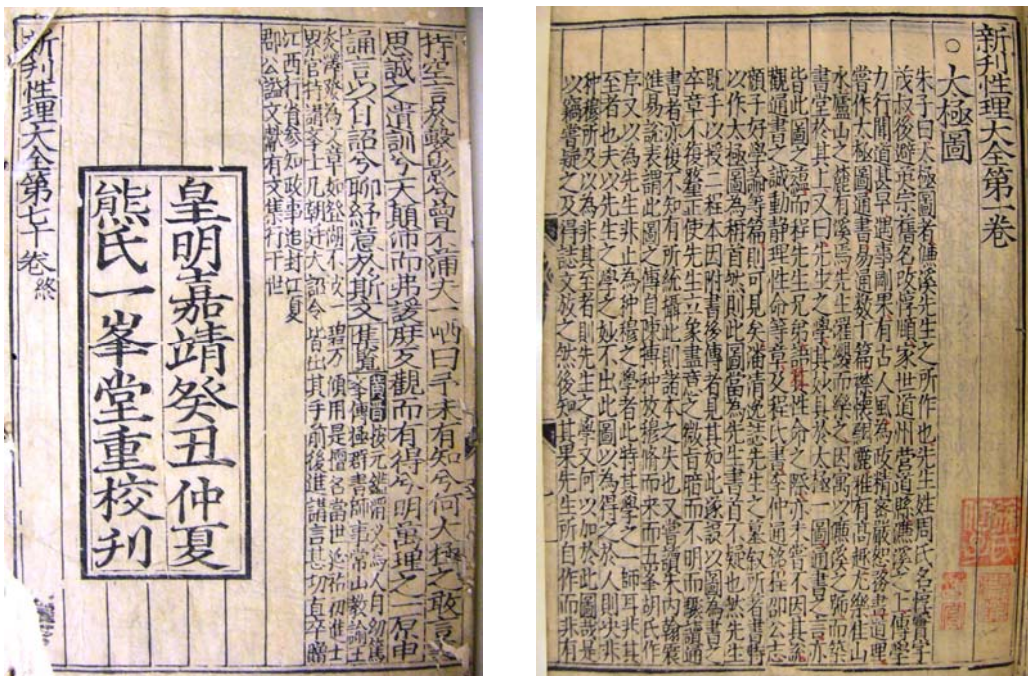
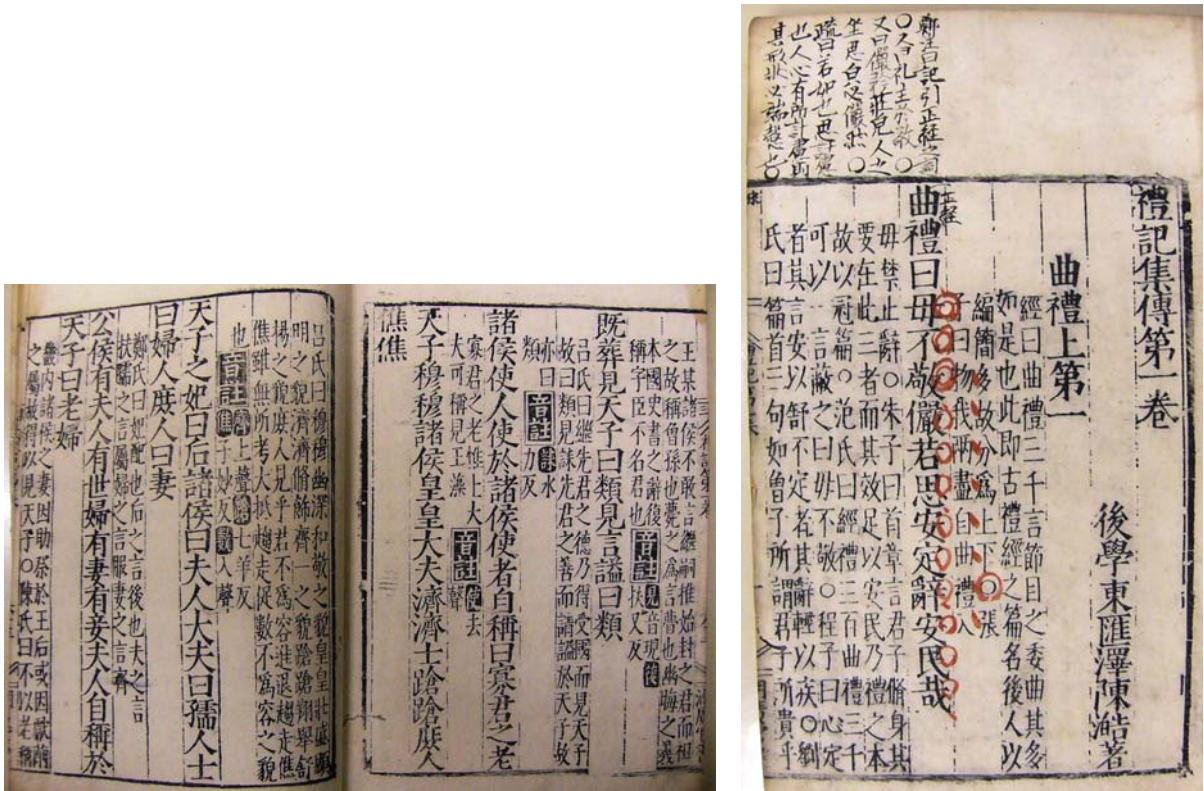
毛詩正義 四十卷 闕卷一至七 昭和十一年（日本京都）東方文化学院據內藤乾吉藏日本国寶宋紹興中槧本（=殘本）影印本（p. 17, 3）



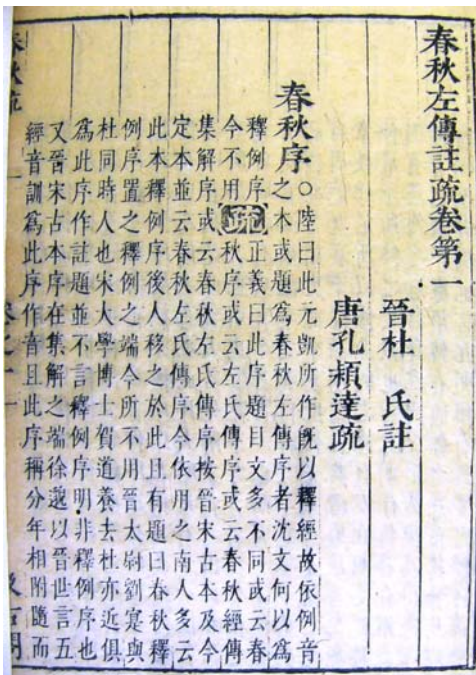
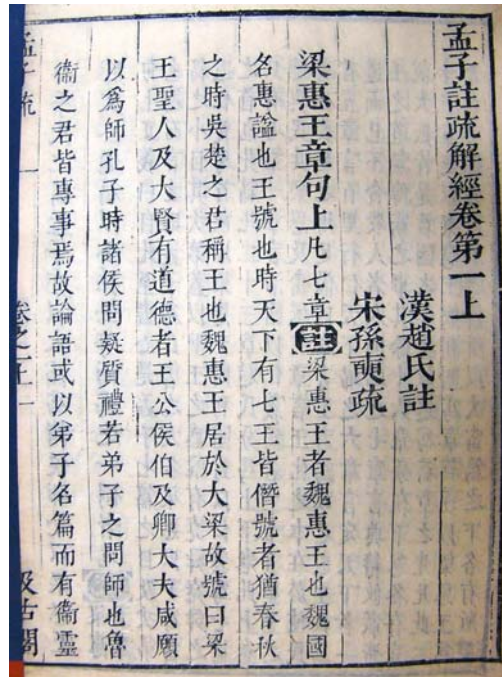
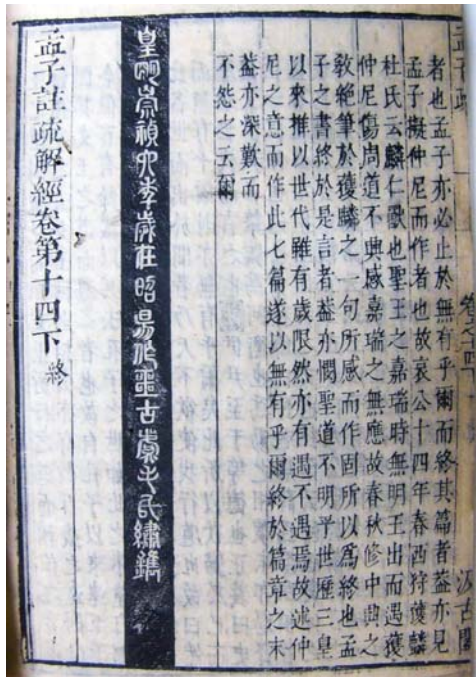
4.1.2. 明刊本

名臣言行錄 明正德十三[戊寅](1518)年建陽書肆刊本（p. 107, 1）





Cf. 杜信孚・杜同書『全明分省分県刻書考』(北京：線裝書局, 2001) 福建省卷 5 頁 b 面
 建陽縣 一峰草堂
 新刊性理大全七十卷 明胡廣撰。明嘉靖三十年福建省建陽書林熊氏一峰草堂刊本。 半頁十一行，
 行二十字，白口，四周單邊。 卷七十後有『皇明嘉靖癸丑仲夏熊氏一峰草堂重梓本』牌記。

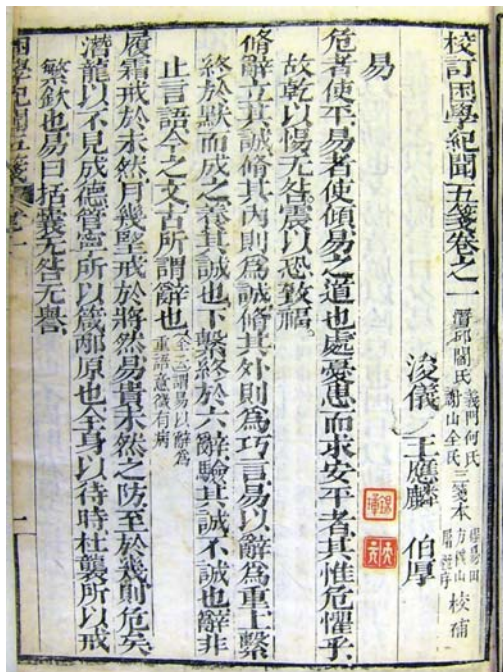


4.1.3. 清刊本

廬山志 十五卷 清刊本 (六目 p.42 下 15)



校訂困學紀聞五箋 二十卷 清嘉慶十三(1808)年重刊本 (六目 p.54 上 9)



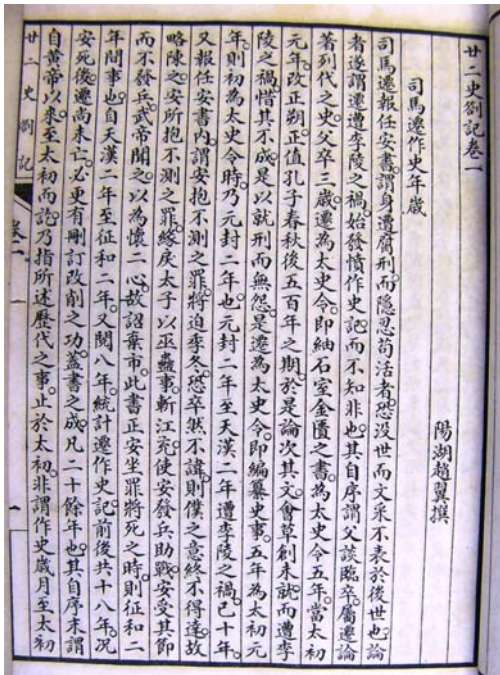
4.2. 活字印本

皇清開國方略 三十二卷首一卷 清光緒中活字印本 (六目 p.31 下 4)



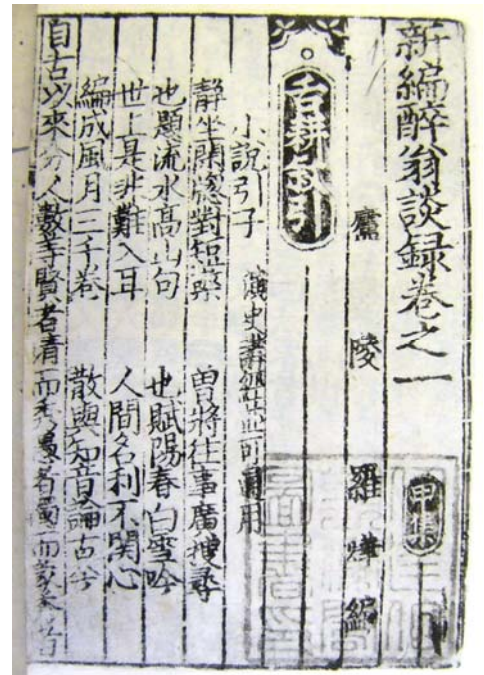
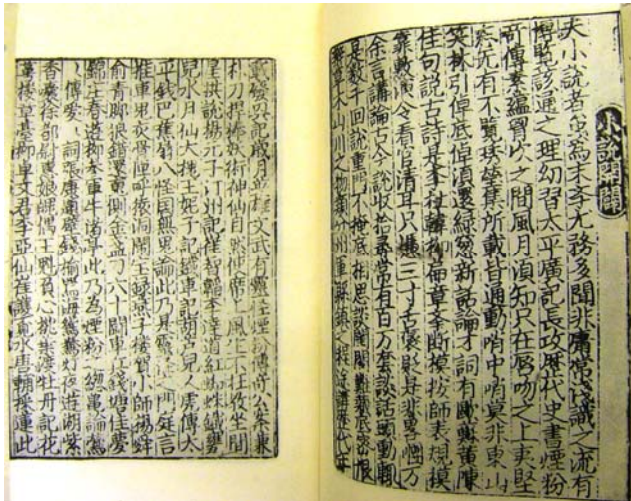
4.3. 石印本

廿二史劄記 三十六卷補遺一卷 上海鴻章書局石印本 (六目 p.30 下 9)



4.4. 影印本（景印本）

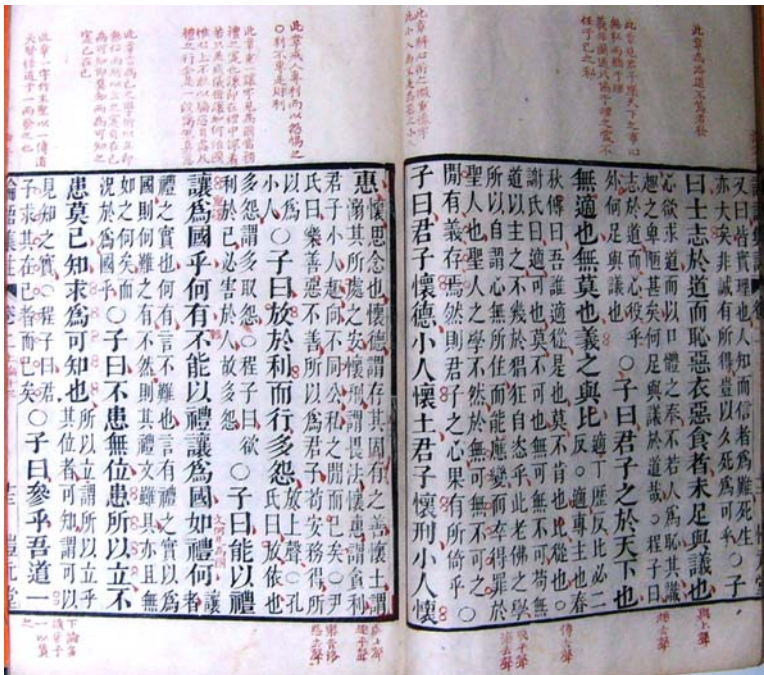
新編醉翁談錄 二卷 昭和十五年東京文求堂〔拋宋／元(?)刊本〕影印本（六目 p.99 上 9）



4.5. 套印本（朱墨本）

4.5.1. 双色套印本

新刻批點四書讀本 七卷 清道光七(1827)年高珍序據愷元堂藏板雙色套印本 (p. 55, 9)



4.5.2. 五色套印本

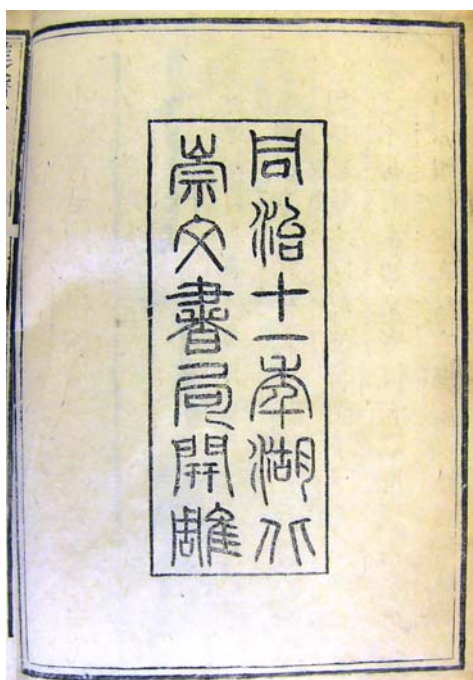
劉子文心雕龍 四卷註四卷 明萬曆四十[壬子](1612)年吳興凌氏刊五色套印本 (九州大学文系合同
図書館蔵)



5. 書誌学・版本学入門(2)

5.1. 封面

司馬溫公稽古錄 二十卷 清同治十一(1872)年湖北崇文書局刊本 (六目 p.30 下 14)

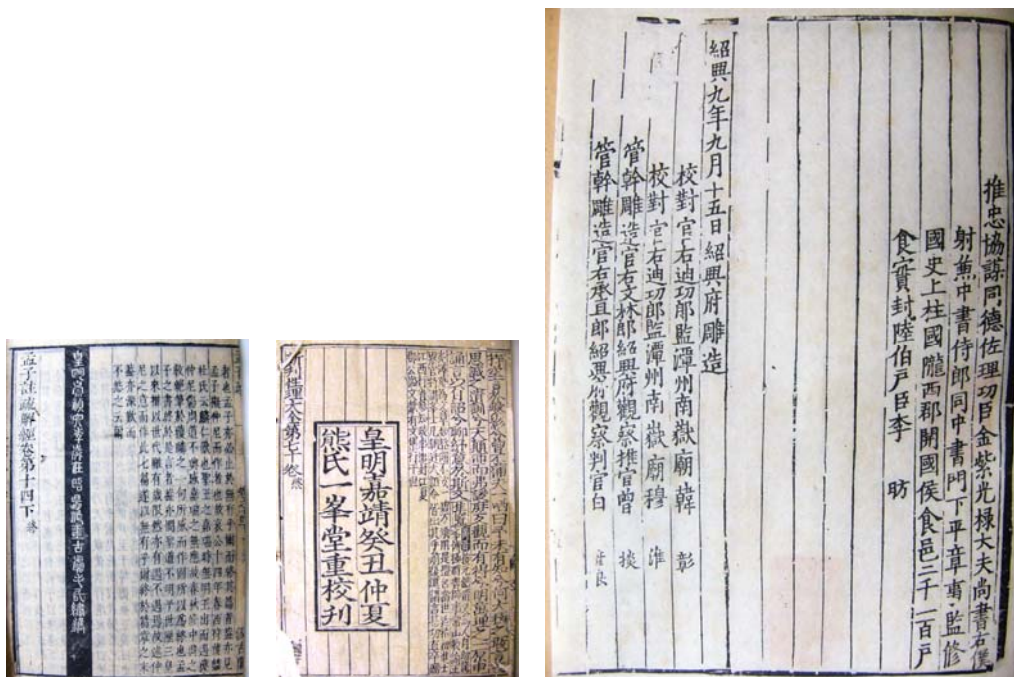


右：南華真經旁注 五卷 清康熙五十五年刊本（六目 p. 80 上 4）
 左：槐西雜誌 四卷 清紀昀撰 清乾隆五十七年刊本 本衙藏版（六目 p. 78 上 10）



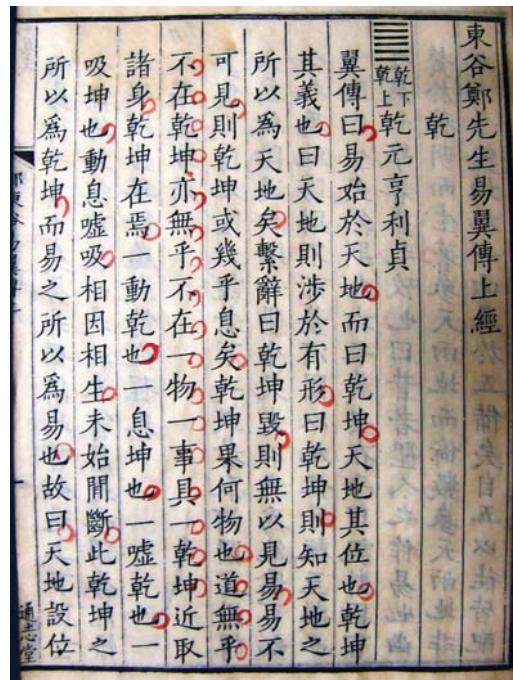
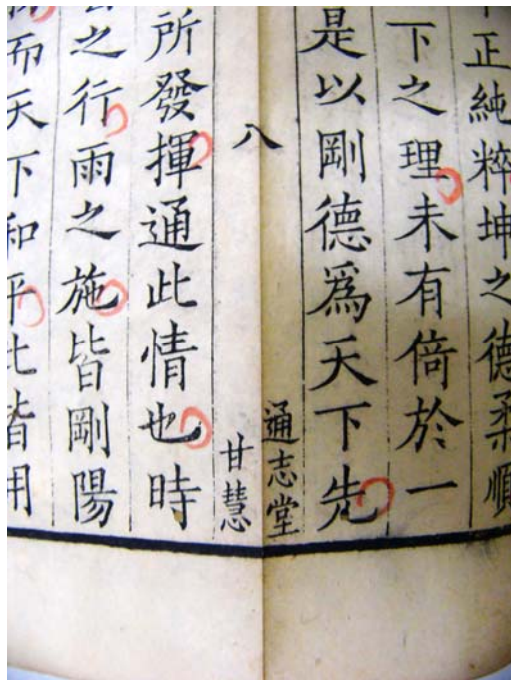
5.2. 刊記（牌記）

右：毛詩正義 四十卷 闕卷一至七 昭和十一年（日本京都）東方文化学院據內藤乾吉藏日本国寶宋紹興中槧本（=殘本）影印本（p. 17, 3）
 中：新刊性理大全 七十卷 明嘉靖三十二[癸丑](1553)年熊氏一峯堂刊本（p. 166, 4）
 左：孟子註疏解經 十四卷 明崇禎九[丙子](1636)年汲古閣刊本（p.44, 1）



5.3. 版心

東谷鄭先生易翼傳 二卷 康熙十五年序通志堂刊本 (p. 5, 6)



6. 参考文献

- 沢谷昭次「参考文献案内」（陳国慶著；沢谷昭次訳『漢籍版本入門』東京：研文出版, 1984, pp. 221-240）補遺
 - 、オンライン目録
 - ・ 全国漢籍データベース（全国漢籍データベース協議会）
<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki/>
 - 一、全体的・基本的なもの
 - ・ 張紹勛, 高津孝訳『中国の書物と印刷』（東京：日本エディタースクール出版部, 1999）
 - ・ 井上進『中国出版文化史』（名古屋：名古屋大学出版会, 2002）
 - ・ 方厚枢, 前野昭吉訳『中国出版史話』（東京：新曜社, 2002）
 - 二、中国の印刷術の歴史に関して
 - 三、目録学・目録学関係書誌・一般書誌について
 - ・ 清水茂『中国目録学』（東京：筑摩書房, 1991）
 - ・ 井波陵一『知の座標：中国目録学』（東京：白帝社, 2003）
 - ・ 井波陵一『漢籍目録を読む』（漢字情報研究センター東方学資料叢刊第12冊, 京都：京都大学人文科学研究所附属漢字情報センター, 2004）
 - ・ 京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター『漢籍目録：カードのとりかた：京都大学人文科学研究所漢籍目録カード作成要領』（京都：朋友書店, 2005）
 - 四、版本に関するもの
 - ・ 魏隱儒, 王金雨著；波多野太郎, 矢嶋美都子訳『漢籍版本のてびき』（東京：東方書店, 1987）
 - ・ 『静嘉堂文庫宋元版図録』（東京：汲古書院, 1992）
 - ・ 米山寅太郎『図説中国印刷史』（東京：汲古書院, 2005）
 - 五、書籍の装訂・その周辺について
- 中国年号・西暦変換
<http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/~toyoshi/nengo/>